

保育科学生と地域親子が育ちあう 子育て支援活動「とことこ広場」

事業担当者

短期大学部保育科 加藤寿子

目的・概要

短期大学部保育科の授業科目「保育ゼミナール」では、子育て支援活動「とことこ広場」を月に2回(年間12回)開催しています。この活動では、学生が親子を通して子育ての現状を理解し、保育者としての実践力(子どもの育ちに応じる力・子どもや親の思いを理解する力・保育者として学び向上しようとする力)を育成することを目的としています。また参加される親子さんにとっては、同世代の子どもや親同士のかかわりを得られるだけではなく、子育てに対する孤立感や不安感を軽減し、子ども理解につながることを願い活動を展開しています。

参加する子どもの年齢は、0歳から3歳(未就園)の子どもたち20組で、大学内にある子育て支援室で自由に遊びます。学生は、子どもたちの年齢に応じて玩具や遊び環境を構成し、温かい雰囲気のなかで子どもやご家族が触れ合い、心地よく過ごすことができるよう準備していきます。また子どもの興味・関心に応じて柔軟に援助し、手遊びや絵本の読み聞かせなども行いながら、子どもや親との関係を深めていきます。

事業成果

子どもたちの年齢は異なるため、初めから子ども同士で同じ遊びを楽しむことはありませんが、広場へ参加する子どもたちは、徐々に環境に慣れていく周りの子どもの様子を観察しながら遊ぶようになります。そして母親とのかかわりを十分に楽しんだ後には、近くにいる子どもと玩具を仲良く使ったり取り合ったりもします。そうした何気ないやり取りの積み重ねが、子どもの日々の生活に必要な学びとなり、育ちにつながっていきます。遊ぶ時間は短いですが、家族とは異なる友だちや大人との継続的なかかわりによって、貴重な体験となっていきます。また母親にとっても子どもとの1対1の関係から、他の子どもや親子・学生とのかかわりを見ることにより、改めて我が子の成長や現状を考える機会となります。さらに、母親同士の触れ合いや教員との会話が、子育てに対する新たな気づきとなっているようです。

学生は、保育終了後に教員や仲間とともにその日の保育について振り返り、子どもの様子や育ちを考え次回への改善につなげていきます。こうした実感を伴った学生同士の学びには、子どもや親に対する理解を深め、自身の課題を明確にするとともに保育学に対する関心を進めていると考えます。今後もよりよい子育て支援活動を学生が検討し、子ども・親・学生が互いに学び育ちあう関係を深めていきたい。

